

# 数

# セ

# ミ

数学セミナー

sugaku seminar january 1989  
vol. 28 no. 01 326

遠山 啓 + 矢野健太郎 = 創刊 日本評論社

特集/ 数学の最前線 II

集合論とその周辺 —— 竹内外史

統計学 —— 赤池弘次

代数幾何 —— 上野健爾

幾何学と数論の交差点 —— 砂田利一

フアジイ理論 —— 菅野道夫

カーマーカー法を  
めぐって

—— 刀根薫

ドイツ数学史の構想 —— 高瀬正仁

ICME印象記 —— 竹之内脩

ゆうべの一冊 —— 高橋礼司

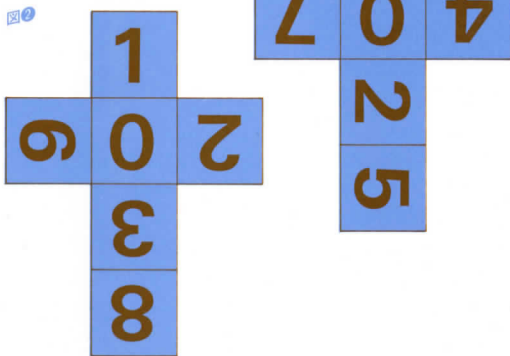
TEA TIME —— 久和ひとみ・川村毅

今月のひと —— 小野博通

1989年1月1日発行/毎月1回1日発行/通巻326号/  
昭和37年4月3日第3種郵便物認可

ISSN 0386-4960

01-89



## サイコロのカレンダー —— 西山豊

クリーニングの仕上りは××日です。カレンダーを示すのにサイコロが用いられていることがある。銀行や郵便局のカウンターにもみかける(図①)。このようなサイコロの1つくらいは、机の上に置いておくのもいいものだ。月と曜日とはともかく、日を示すのにちょっとした工夫がしてある。サイコロは6面ある。これを2個使って1から31までの日付を表わそうというのだ。6×6=36だから充分あらわせると思っるのは早合点。私達の住む世界が6進法ならよ

いが、10進法で表わすところにパズル性がある。つまり、数字の配分がキーになっている。数字は、0と1と2が両方に重複して入っている。そして一方に3と6と8が、また一方に4と5と7が入っている(図②)。6を逆にすると9と読めるようになっていことが大切だ。このようにしておく、順序を含めて7×6×2=84個の数字が表わせる。この中には重複や無意味な数字もある。数字の形にヒントを得て、何か一工夫すればこのようなエレガントな商品が誕生するのだ。

(にしやまゆたか大阪経済大学)